



2009年3月11日放送

領域別入門漢方医学シリーズ

心身医学領域と漢方医学

九州大学大学院 医学研究院 心身医学 准教授 岡 孝和

(5) ストレスによって生じる病態 瘀血、寒熱

今回は瘀血とよばれる血の病変と寒熱という指標について説明します。この2つを取り上げるのは、ストレスによって生じたり、増悪する、疼痛などの身体愁訴を理解し、治療する際に重要な概念であるにもかかわらず、現代医学では、これに相当する視点を欠き、適切な治療法が存在しないからです。

瘀血とは、「血液がさらさらと流れない状態」をさす漢方の概念です。現代医学的には、毛細血管レベルの微小循環の障害を意味します。具体的には、瘀血の状態では血液粘度が上昇し、赤血球の変形能が低下し、血小板凝集能が亢進していることが知られています。また月経障害に関連した精神、身体症状も瘀血と関連して考えられていますので、瘀血は視床下部-下垂体-性腺系の機能失調も関与していると考えられます。

(心理社会的ストレスと瘀血)

心理社会的ストレスは瘀血を増悪します。現代医学的にも交感神経・副腎髄質系を

亢進させるような心理社会的ストレスは血液粘度を上昇させ、血小板凝集能を亢進させること、視床下部-下垂体-性腺系を抑制することが知られています。

瘀血は単独で存在することは少なく気鬱、気虚、気逆、水滯といった様々な病態と併存し、これらの病態は瘀血を増悪させます。

次に瘀血の診断について述べます。

瘀血の状態では、舌診、腹診で特徴的な所見がみられます。まず舌診では、舌の色が、暗赤色から紫色を呈し、舌縁に瘀点とよばれる紫色の点が見られることもあります。また舌を上方にそらしてもらおうと、舌下静脈の怒張がみられます。

腹診では、臍周囲、回盲部、S状結腸部に限局した圧痛点がみられ、これらの所見が存在すると瘀血と診断できます。ただし、若い女性では、お腹のどこをさわっても痛いと訴える患者がいます。その場合は瘀血とは考えません。

瘀血のときにみられる自覚症状としては固定性で夜間に増強する疼痛、月経障害、月経に関連した精神愁訴が重要です。

治療について：瘀血に対しては桃仁、牡丹皮、大黄を含む、桂枝茯苓丸、大黄牡丹皮湯、桃核承気湯、当帰、川芎を含む当帰芍薬散、女神散、温経湯で治療します。これらの瘀血を改善する漢方薬を駆瘀血薬と総称します。

次に瘀血を呈することの多い疾患に対する漢方治療について説明します。

精神疾患：難治性の不安障害、気分障害の患者の中に瘀血の所見が顕著な人がいます。そのような場合、駆瘀血薬がしばしば有効です。私の経験した症例では、漢方的には瘀血、現代医学的には多血症のみられたパニック障害患者に桂枝茯苓丸を投与したところ、不安感と同時に、倦怠感、肩こりが改善した症例がありました。

月経困難症：月経困難症も、漢方では瘀血と考え、芍薬を含む駆瘀血薬が投与されます。ただし芍薬甘草湯、当帰芍薬散、桂枝茯苓丸などを投与する場合、月経が開始する1週間前から開始することがポイントです。これは、芍薬の有効成分であるペオニフロリンが配糖体であるため、腸管から吸収されるためには、腸内細菌の分解酵素による糖鎖の切断が必要だからです。月経痛が始まる前から服用し、糖鎖を切る腸内細菌をあらかじめ増やしておくことで、有効成分の血中濃度がはやく上昇するようになります。ただし、患者の中には六君子湯によって脾虚の治療を行う必要のある場合もあります。

更年期症候群：更年期も瘀血を呈しやすい時期です。現在、更年期症状に対しては当帰芍薬散、加味逍遙散、桂枝茯苓丸の3処方頻用されています。漢方処方とホルモン補充療法との効果を比較すると、頻用3処方による漢方治療よりHRTの方が易疲労感を改善していますが、抑肝散、柴胡桂枝乾姜湯など気剤を含めた漢方治療を行った報告では、漢方治療群の方が易疲労感をより改善しています。したがって瘀血だけに目を奪われることなく、併存する気の病変に対して気剤を併用することが大切であることが理解できます。また温経湯はホルモン補充療法で十分な効果を得られない更年期症候群患者に対して、当帰芍薬散より抑うつ、不安を改善することが報告されており、不安、抑うつを伴う更年期

症候群の患者に対しては、温経湯を検討してみるとよいでしょう¹⁾。

(瘀血に対する心身医学的療法について)

心理社会的ストレスによる瘀血の増悪は血液粘度の上昇という直接作用だけではなく、ストレスを解消するためにタバコ、コーヒーの量が増えたり、運動不足が続くことなどの間接作用によっても生じます。したがって瘀血患者に対しては生活習慣に関する指導も重要です。

次に寒証について述べます。

ストレス性の痛覚増強の閾値を決める要因として、寒証とよばれる状態も重要です。寒証とは、生体に冷えている部分があり、寒冷刺激によって疼痛が増強する状態です。現代医学的にも、線維筋痛症患者の痛みは寒冷刺激で増悪することが注目されています。ストレス状況で気虚の状態が遷延化しても、寒証を呈するようになります。

寒冷刺激で増悪するのは腹痛、頭痛、腰痛などの疼痛だけでなく、浮動性のめまい、下痢、シビレ感などの感覚障害なども増悪することがあります。

生体を温め寒証の状態を改善する漢方薬には、附子を含む真武湯、八味地黄丸、牛車腎気丸、乾姜を含む人参湯、大建中湯、苓姜朮甘湯、呉茱萸を含む呉茱萸湯、当帰四逆加呉茱萸生姜湯、当帰を含む当帰芍薬散、十全大補湯などがあります。

寒冷ストレスと精神的ストレスによって生じた寒証の状態に対して、苓姜朮甘湯が著効した症例を紹介します。

患者は62歳、女性、看護師長です。

主訴は、腰から下が冷えて痛い、体がきついというものでした。X年秋、新しい病院の準備と人集めのため、心労、肉体的疲労がたまり、12月には1ヶ月で4kg、体重が減少しました。年末、正月準備のため寒い炊事場で立ち仕事を続けているうちに、「腰から下が冷えて、風にあたると痛いくらい」に感じるようになりました。「横になると腰からお腹にかけてつっぱり、冷えて、夜も眠れず、起きて体をさすらないとおれない」状態となり、不眠のため倦怠感はさらに増強しました。

この状態は、金匱要略にでてくる苓姜朮甘湯の適応病態と同じであるため、苓姜朮甘湯を投与したところ著効しました。下半身の冷えと疼痛という症状がストレス性に発症し、増悪することがわかります。

(寒の状態に対する心身医学療法)

疼痛、めまい、感覚障害が寒冷刺激によって増悪するということは、温熱刺激やリラックスして血管拡張反応が生じると改善するということでもあります。患者に「あなたの困っている症状は、どういうときに悪くなって、どういうときに和らぎますか？」と聞き、望ましいセルフコントロールの行動がとれていれば、それを強化することも有効です。

以上、5回にわたって放送したストレス性疾患に対する漢方治療をまとめてみますと、虚弱児のストレスに対しては、脾胃を整えること。

思春期、成人のストレスに対しては肝をのびやかにすること。

成人女性のストレスに対しては瘀血と冷えを改善すると同時に、話を聞くこと。

成人男性のストレスに対しては漢方診断だけでなく、臓器障害に関して西洋医学的に評価し、奥様にも一緒に来てもらうこと。

高齢者のストレスに対しては気血を整えること。

治療の場は、決して患者が治療者に対して気を使ったり恐縮する場とならないよう配慮すること、特に、幼少時、外傷体験のある患者に対しては、薬物療法だけでなく情緒的温補を心がけることが重要です。